

ガソリンスタンドや工場の地下など、油で汚染された土壌を微生物を利用して浄化する製剤を石川県のベンチャー企業が製品化し、この製剤を用いた浄化法が北陸三県で初めて国の指針に適合した。周囲の生態系へ影響がなく、安全管理が適切と認められた。既にガソリンスタンドなどで使用されており、国の「お墨付き」を得て拡販を目指す。

製剤は石川県工業試験場が支援し、環境浄化事業のゲイト(野々市市)が開発。微生物の働きを利用して土壌や地下水の汚染浄化を図る技術に対し、経済産業省と環境省が合同で設けている「微生物によるバイオレメディエーション利用指針」に、全国で8例目、ベンチャー企業単独では初めて適合認定を受けた。液状の製剤には、県工試が

### ゲイトが開発

新潟県の油田近くで発見した「GKN-4」など、石油分解性の微生物が含まれる。油が染み込んだ土壌をボーリング工事で掘削、中に製剤を注入すると、微生物が徐々に増殖しながら油を水と二酸化炭素に分解する。汚染土壌1トに製剤約1トが目安で、価格は従来法に比べて低く抑えられるという。土壌をかき混ぜる必要がない。

# 微生物で浄化 国指針に適合



く、工場などは操業を続けながら浄化できる。従来の土壌浄化は、土を燃やしたり洗浄する方法が主で、環境へ影響が懸念される上に高コストだった。

ガソリンスタンドの土壌を浄化するため、穴を掘って製剤を注入する作業の様子

## 石川県工試が支援 北陸初、生態系影響なく

# 北陸経済

「中国事業で不適切処理の疑義あり」。2012年9月11日、コマニーの小松市の本社と東京の

